

専門性を持つ育児相談の効果と課題

～世田谷目黒地区分会「助産師による子育て力UP講座」の試み～

林江美¹⁾ 岩佐寛子²⁾ 中西貴子³⁾ 二階堂直美⁴⁾ 吉田敦子⁵⁾ 張曉燕⁶⁾

1) 3) 4) 6) 開業助産師 2) 世田谷区立産後ケアセンター 3) NPO 母子フィジカルサポート研究会

I. 背景

女性は、妊娠・出産を機に助産師と出会い、ケアを体験するが、施設退所後も、地域に助産師がいるという事を知らずにいる母親は多い。産後は、授乳全般、産後の身体、育児など、助産師のケアのニーズは高い。世田谷区では赤ちゃん訪問や、産後ケア事業での利用対象を4カ月未満としているが、4カ月以降も母親を支援する専門職やケアを提供する場所は十分とは言えない。当会でも地域に住む妊産褥婦への貢献を検討していた時期で、2017年より「子育て力UP講座」を開催し、講座と相談を提供する活動を実施した。専門性のある活動と、地区分会として明確になった課題を報告する。

II. 実践内容

講座内容は、①母乳育児に関する事『母乳と離乳食』・『卒乳』②母親の身体的事『産後ヨガ』・『骨盤ケア』③育児の事『ベビーマッサージ』『赤ちゃんからの性教育：おちんちんとおまたのはなし』。妊娠期夫婦向けには母乳育児・産後の心身の養生・赤ちゃんとの生活の『両親学級』とした。対象は妊産褥婦とその家族。実施回数 9 回/年。募集人数は毎回 5 組～10 組。会場は世田谷区の空き家対策スペースや、おでかけ広場を貸借。資金は、参加費 2,000 円の他、世田谷区「子育て基金」を申請。講師は、1年目は東京都助産師会から、2年目は地区分会から依頼し、得意分野としたテーマを提供。スケジュール等（実施日時、会場、対象、募集人数、講師等）は各種方法で広報した。時間は質疑応答を含め2時間とした。

III. 結果

実施回数：計 18 回（年 9 回/年）参加人数：延べ人数 77 組（1年目 37 組、2年目 40 組）
利用者のアンケート：悩み相談出来て良かった。子供の成長も一緒に見守ってくれて嬉しい。少人数で話しやすかった。疑問が解消できた。定期的にお話出来る所があると良い。など

IV. 考察

利用者は講座を通して、助産師による専門家からの知識習得や支援を受けるだけでなく、母親同士が話をするによりエンパワメントされた。アンケートより、参加した事で、専門職の重要さを体験してもらえが、類似内容の講座は数多く実施されており、「助産師」が開催する講座の特徴が伝わらず、集客に苦戦した。

V. 今後の課題

講師や場所の確保、費用捻出が助産師会独自では難しく、安定した活動事業とするには、毎回 6 組の集客が望まれる。母親の育児不安の軽減は虐待防止にもつながり、母親自身が適切なセルフケア力を持つ事で医療費削減にもなる。当会の活動特性を行政にも認知して頂き、補助金や場所の提供も検討して頂けるよう働きかけが重要である。また、講座活動を通して助産師の『技』を会員間で共有しあう機会も得た。これを広く周知し、会員の参加を増やしたい。